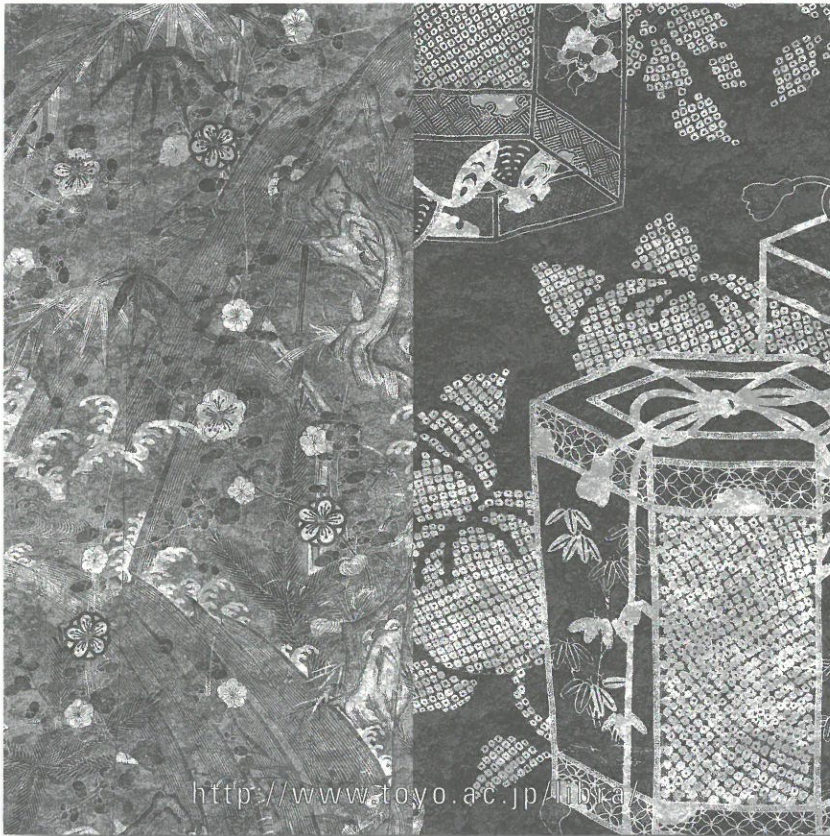


KOZMOS

特集 日本文化にふれてみよう～図書館は資料の宝庫～

正月の玩具/着物の楽しみ/留学生の正月花とは/日本酒と微生物酵素/「日本文化」関係資料所蔵リスト/
これは便利～自宅からインターネットで図書館の本が検索できます/「赤毛のアン」のふるさと プリンズ・エドワード島を訪ねて



<http://www.toyo.ac.jp/libra>

WINTER

1999

NO.124

《特集》

日本文化にふれてみよう～図書館は資料の宝庫～

正月がくると、活動的な女性が急に着物を着たくなったり、ファーストフードになじんだ舌がおせち料理を恋しがったり、信心はともかく初詣に出かけたりと、日頃興味も示さなかった日本的なものに関心が向きます。また、留学生に日本のことを教えようとして、意外なほど日本を知らない自分に気がついたりもします。

今号は、年の始めにちなんで日本文化を特集しました。図書館と言えば、勉学のための利用が主だと思いますが、今年は、伝統に触れるきっかけを作りませんか。図書館は宝の山です。

正月の玩具

比嘉 佑典

もういくつ寝ると お正月

お正月には 凧あげて

独楽(こま)をまわして 遊びましょう

早く来い来い お正月

『お正月』東くめ作詞

子どもの頃(昭和20年代)、お正月が近付くと、よく唄った歌である。

私たちの子どもの頃の正月遊びといえば、凧揚げ、独楽回し、竹馬、羽根つき、かるた、双六、鞠突きなどがさかんに行われたものである。

正月の遊び(玩具)は、日本の伝統的な子どもの遊びで、江戸時代のお正月には、女兒は手鞠、羽子突き、男児は凧揚げ、独楽回しがさかんに行われていた。『東京風俗志』(明治34年)に、正月遊びについてこんなくだりがある。「松の内の間は、市中なべて遊びのさまにて、殊に少年少女は内外の遊びに余念なし。男児はたこを揚げて其の高さを競い、女児は手鞠、羽根突き、追羽子に日の傾くを知らず…夜に入れば双六(すごろく)かるた取り、トランプ、花引き、さてには十六武蔵、福笑いなど、男女老若

うち集いて勝負を争う」。

私の「児童文化研究」の講義では、こうした子どもの玩具文化についても扱う。そんなわけで図書館には、児童文化に関する図書が沢山そろっている。特に玩具や遊びの絵を見るのも楽しい。ちょっと図書館に足をはこんで、それらの図書に接し、お正月気分を味わってみませんか。

(ひが・ゆうてん 文学部教授)

【参考資料】

『東京風俗志』平出鏗次郎(白)382.136:HK:2(朝)382.1:N-7



「こども遊」より 宮川春汀画 明治37年(1904)

題名の「やり羽子」(遣り羽子)は二人以上でつく追羽根のこと。一人でつくのは揚げ羽子といった

萬崎規子

着物の楽しみ

すすきの穂が銀色に輝き、萩の小枝から虫の音が聞こえるころ、街に着物姿の女性が見えかくれる。日本文化はまだ細々とはあるが息づいているのかな……と、わたくしはほっとするのです。

着物姿の女性が、日常の風景から消えはじめたのはいつごろからでしょう。着物は決して晴の装いというのではなく、普段着としての美しさをもっと多くの若者に知っていただきたい。肩ひじをはずす、自然になにげなく着る楽しみを味わってみたいと切に思います。

季節を装い、小さな自己主張をどこかに忍ばせて着物を着るのは、とても浮き浮きした気持ちになれるものです。

いたずらな木枯しが、色あざやかな木の葉を集めるころ、着物を着る楽しみがまたひとつ心をゆさぶってきます。それは、羽織を着る楽しみなのです。(近年、呉服屋さんに出かけても羽尺というのが非常に数少なくなってしまったことは、本当に残念でなりません)。羽織丈が女性のしなやかさをひき出してくれるからです。羽織は着物姿をゆたかにつつま、淑やかさと楚々とした女性の美しさをひきたててくれるから、わたくしは大好きなのです。

固く閉ざされた蕾が、春の光を浴びて少しづつふくらんでくると、一つ紋の無地の紬を着てちょっとお洒落な帯を締め、「能」か「文楽」でも観に出かけてみようかという気分になります。

日本文化の豊かさの特長は、和辻哲郎の『風土』にもあるように、自然からの贈物だと思います。

やきものに魅せられる「染め付け」のように、日本人の肌には藍がとてもよく映ります。藍の匂いと爽やかな色合いが、初夏のおとずれを感じさ

せるのです。緋の美しさも藍染めならではないでしょうか。

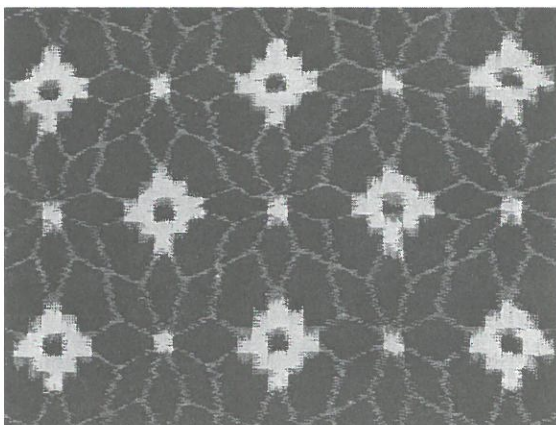
いつの日か幸田文のように知的で、凛とした装いができたらと考えています。それには、豊かな教養を身につけ他人のために何かができる人間になることではないでしょうか。現在国際人としての活躍が期待されている一方、一部知識人の中にも国際化というのは、日本を忘れ日本文化を否定することのように捉えている人も見うけられます。しかし、国際人として広い視野をもち、人類という立場で物事を主張するとき、最も大切なことは、自国の文化を正確に理解していることではないでしょうか。学生諸君も、魅力的な大人として成長し、国際人として世界に羽搏くためにも、知識の宝庫である図書館をおおいに利用して、豊かな未来を切り開いて下さい。

(まんざき・のりこ 短期大学観光学科助教授)

【参考資料】

『風土』和辻哲郎 (白・電)(工)121.9:WT:4 (朝)121.6:WT

『幸田文全集』(白)(朝)(板)918.68:KA



藍染め「ダイヤモンドの葉」文様

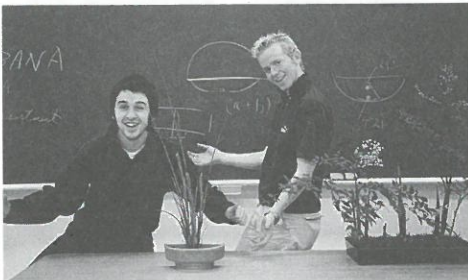
留学生の正月花とは

東洋大学教職員華道部

寒さが増してきた二の酉のころ、留学生の「日本文化・いけばな」の指導が華道部によって行われた。

小原流小野春映先生による講義「いけばなの歴史」の後、デモンストレーションへと続いた。花材は「南天、水仙、立日陰」であった。南天はその名前から難を転ずるなどといわれ、祝儀のものとされている。また、たくさん稔る実が子孫繁栄の象徴とされる。水仙は花材の中でも品格のある草花として愛好され、花の形に擬えて「金盞銀台」などと美しさが形容される。冬の寒さの中にやがて訪れる春に向かって咲く花として、梅とともに迎春の花として使われる。南天、水仙は正月花にふさわしい花材であると説明があった。

留学生の体験実習は華道部員が行った。花材は「珊瑚水木、アイリス」。これに、松や千両の一枝を加えれば充分正月花となるが、いけばな初体験の留学生に合わせ二種類とした。いけ方の基本を説明し、「あとは、あなた方のセンスで」と言ったところ、赤い珊瑚水木にティッシュペーパーを雪に見立てて飾り付け「クリスマス、クリスマス…」と楽しそうに歌う学生がいた。彼らにとって特別



な花とはクリスマスツリーなのだろうか。

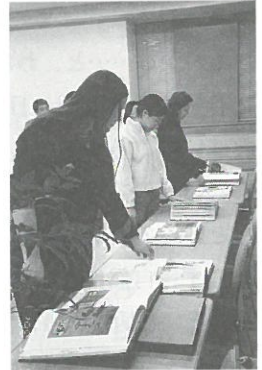
いつの日かホームステイに協力し、留学生が日本の習慣や行事を経験し、暮れの慌しさも知ってもらえたらなら、正月花の水仙の少しねじれた葉の中に、春を見つけだす日本人の繊細さを少しは理解してもらえないに違いない。（「二の酉」平成10年は11月22日）

（とうようだいがく・きょうしょくいんかどうぶ）

当日は、図書館から下記の本を参考資料として提供した。伝統のないいけばなから「これでもいけばな？」というような前衛的のものまで、幅広いいけばなの作例写真に留学生は興味を示した。「今日展示できなかった本もたくさんあるので、是非図書館を利用してください」との呼びかけに素直にうなずいていた。帰国するまでに、おおいに図書館を利用して日本文化について造詣を深めてもらいたいと思う。

【参考資料】

- 「いけばなの美学」 (白) 793.08:Z (大型本)
- 「現代のいけばな」 (白) 793.08:Z (大型本)
- 「いけばなの文化史I・II」 (白) 793.08:Z
- 「いけばな 花の伝統と文化」 (白) 793:MH
- 「五島泰雲作品集」 (白) 793:GN



日本酒と微生物酵素

掘越 弘毅

日本の酒と欧米の酒の間にいくつかの作り方の差がある。そのうちの一つは日本ではデンプンを糖化するのに麴かびを用い、欧米では麦芽を用いる事である。

1894年、高峰譲吉は、米国で従来からウイスキーを作る際に用いられていた麦芽から抽出したジアスターゼ（アミラーゼ）よりも、もっともって強力でしかも安価なタカヂアスターゼを、日本古来の麴かびから抽出し、工業的に生産することに成功した。現在では酵素というと大部分が微生物から作られているものであるが、当時は、微生物、特に「かび」から酵素を作り、これを食品・医薬品に用いるなどは考えてもいなかった。これは日本のように、放っておいても自然に「かび」が生えるような国でないと「かび」を利用するなどという考えは起こらなかったのであろう。筆者が米国に住んでいた時、米を炊いて放置しておいてもかびる前に乾燥してしまった経験がある。また日本から母が親切にも「もち」を船便で送ってくれた。「もち」はグリーンのきな粉にまぶされて到着した。「かび」がいっぱい生えていたのだ。うっかり開封して、「かび」の胞子を撒き散らしてしまった。当然のことながら色々な食物に日本製の「かび」が生えだした。所が不思議なことに、一か月もたつと「かび」が段々に減少し、そのうちに「かび」も生えなくなってしまった。やはり日本の麴かびは米国での気候では死んでしまうのかなーと思った。これでは「かび」が生えるほど

に古いなどと云う表現はあるはずがない。まさに「かび」の文化と麦芽の文化の違いを身をもって知った。

ところで、高峰は、価格の変動の激しい麦芽に替わって安価なタカヂアスターゼを用いて、トウモロコシを糖化し、バーボンウイスキーを作ること計画した。「かび」を応用することの知識のなかった当時の米国人の反発、麦芽業者の反対などにあい、折角作った、イリノイ州の工場は焼き打ちを受け、この計画は潰れてしまった。もしこれが成功していたら、米国のバーボンウイスキーはバーボン焼酎になっていたかもしれない。残念と言えば残念でもあるが。

しかし高峰の微生物酵素を利用するという考えは世界の初期のバイオテクノロジーに強く影響した。麴かびを利用するという日本本来の技術があったため、日本には容易に取り入れられた。タカヂアスターゼを始めとする多くの微生物酵素を作る会社が誕生し、数々の酵素が医薬、食品に利用されている。この伝統は現在にも引き継がれ、日本のみならず世界に広がり、澱粉からグルコースを作る酵素糖化、さらに果糖を作る異性化糖生産法などが確立されていった。また最近では酵素入りの洗剤など日本発の新しい製品が次々と生まれるようになった。「かび」を利用した文化が世界に広がり麦芽の文化と交じりあい新しい文化を作りつつある今日この頃とも言える。

（ほりこし・こうき 生命科学部生命科学科教授）

「日本文化」関係資料の所蔵リスト

日本列島の文化史	(白)開	210.1:K-4	(朝)	210.1:K-2	(工)	210.1:K		
比較文化への展望	(白)開	210.1:K-4	(朝)	210.1:K-2	(工)	210.1:K		
文化と社会意識	(白)開		(朝)	361.08:R	(工)	361.08:R	(板)	361.08:R
建築—文化					(工)	R525.1:N-2	(板)	525.08:N
キモノ・マインド	(白)開	382.1:RB			(工)	520.8:S-8	(板)	302.1:RB
きもの	(白)開	383.1:SK:2	(朝)	383.1:SK				
正月の来た道	(白)開	386.:OT						
きもの文化史	(白)開	383.1:KS			(工)	520.8:S-8	(板)	383.102:KS
おもちゃの文化史	(白)開	759:FA	(朝)	759:FA				
双六・福笑い	(白)開	759:TT(大)	(朝)	R759:TT				

※この他にもたくさんありますので、「OPAC」、「Webcat」で検索してください。
 ※(白)白山図書館 (朝)朝霞分館 (工)工学部分館 (板)板倉図書館

これは便利……自宅からインターネットで図書館の本が検索できます

図書館にある「OPAC」に自宅のパソコンからアクセスできたら良いと思ったことはありませんか？あなたが探している本が図書館にあるのかわからないのか、図書館まで行かなければわからない。そんな不便を感じたことはありませんか？

それらの悩みを解決する、便利な学術情報センターの「webcat」をご紹介します。「webcat」では東洋大学の図書・雑誌はもとより、他大学・機関の資料の検索がほぼできます。

方法は次の二通りです。

- ① 東洋大学の各図書館ホームページの **NACISIS & OPAC** 欄をクリックする。
- ② 直接「<http://webcat.nacsis.ac.jp/>」のアドレスでアクセスする。

それでは、実際に検索してみましょう。上記のいずれかの方法でアクセスすると「図-1」が表われます。

NACISIS Webcat
 総合目録データベースWWW検索サービス

Webcatは、学術研究利用のために提供されるものであり、営利のための利用はできません。Webcatで検索した資料について、図書館に利用を申し込めば、借出申請してください。
 [利用の手引き] [English version here]

◎全資料 ○図書 ○雑誌

タイトル : 赤毛のアン
 著者名 :
 出版者 :
 出版年 :
 発行者 :
 フォーワード :

[検索開始] [検索終了]

図-1

次ページの記事にちなんで「赤毛のアン」を検索します。

資料の指定が出てきます。ここでは「全資料」を指定してみましよう。すると「NACISIS webcat: 詳細表示」が表われます。書名一覧が表示されますので、求める本を選択します。

すると「図-2」が表われます。東洋大学も所蔵していますね。

なお、他大学に向いて資料を利用したい場合、大学からの紹介状が必要です。あなたが検索したデータをプリントして図書館に来て、紹介状を作ってもらいましょう。

NACISIS webcat: 詳細表示

[利用の手引き] [検索画面に戻る]

「赤毛のアン」の故郷へ：いまよみがえる「アンの世界」 / 掛吉村和歌写真集 -- (BN08867244)
 東京：講談社、1991.10
 143p；21cm -- (講談社カルチャーブックス；30)
 ISBN: 4061980408
 著者: 掛川、森子(1906-)；吉村、和歌
 分類: NDC8：295.131；NDLC：GH295
 件名: Montgomery, Lucy Maud(1874~1942)；プリンス・エド

所蔵図書館 16

中国大 295.13/Ka-24 00237356
 京産大 295.131 741451
 金学大 0801/Ko1080 Koll295.131 115437
 筑大 295.13 023349
 山口大 295.13/K11 00961734 14
 東海大 295.131/Ka24 IR0086599
 津市開 開 PUOL: 5140283
 静大 0811/Ko 191130 94003743
 静大 TRNDRI 0811/Ko 191130 97000670
 3洋大 00372208
 帝大 202052
 東洋大 開架 933.8:KV-2 0201373784, 0210014312
 日大文理 295.171/Ka 24 14282024
 福花女 H0054787*
 武蔵大 930.281/H78714 301530
 北大分館 分館 dc20:917.17/Ka 0171899433

図-2

「赤毛のアン」のふるさと プリンス・エドワード島を訪ねて

原口 法子

「本当に^{さんざし}山査子のない国に住んでいる人が、かわいそうだと思うわ」とアンは言った。（「赤毛のアン」第20章から）この本を読んだ時、どんな花なのか、いつかきつと見に行こうと心に決めた。

20年以上経った今日、思いがけなく「赤毛のアン」ツアーに参加することができた。それも娘と共にである。

旅の前半は、ナイアガラ、ケベックであった。後半はカナダの夕焼け空の中から、赤く縁取られた海岸線の島プリンス・エドワード島に舞い降りた。シャーロットタウン空港ロビーには「ようこそプリンス・エドワード島へ」と日本語のメッセージがあり、思わずジーンときた。

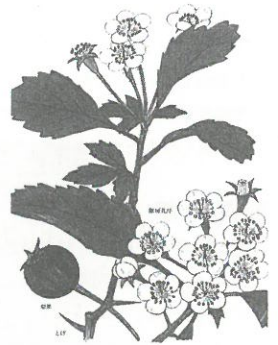
ここでの9月はすでに秋に入り、別名メイフラワーと呼ばれている山査子の季節ではないにもかかわらず、至るところに花はあった。アンの世界に引きずり込まれるような光景だ。

街の中央に敬虔な教会がそびえ建っていた。確かにアンも熱心？なクリスチャンであった。カトリックの決まりごとなのであろうか、日曜日は休息日で働いてはいけない日なのだ。日曜日におめかしをして教会にいくアン^{アン}の姿が目^目に浮かぶ。



プリンス・エドワード島の小径

「赤毛のアン」については、訳本・紀行文等たくさん出版されている。訳者は村岡花子さんが有名であるが、他の翻訳者の本もまた違ったアンに出会わせてくれるかもしれない。実際にアン^{アン}のふるさとを訪ね、恋人の小



径やおばけの森を歩くと、少女から大人になっていく多感なころの自分に引き戻された。娘はどうにそんな時期を通り過ぎたのだろうか、やはり「赤毛のアン」と共に育った。親子代々と伝えられる「赤毛のアン」はそんな小説なのだろう。我が家の庭にも山査子をたくさん咲かせよう。少女の頃を忘れないように。

図書館所蔵の「赤毛のアン」に関する本を紹介する。時間のある時に是非、あなたもノスタルジアの世界に。

（はらぐち・のりこ 図書事務課主任）

【関連図書】

「険しい道：モンゴメリ自叙伝『赤毛のアン』が生まれるまで」

モンゴメリ著（白）933.7:ML:4

「二十世紀嘆きの天使」瑞木祥乃著（白）933.7:MS-2

「赤毛のアン」モンゴメリ著、（朝）933.8:MS

（白）933.7:ML（朝）933.8:ML-2:2

「赤毛のアン・夢紀行：魅惑のプリンスエドワード島」

NHK取材班著（白）933.7:A-3

「赤毛のアン^{アン}の翻訳レッスン」河野万里子著（白）801.7:KM

I N F O R M A T I O N

お し ら せ

図書館ニュース「KOΣMOΣ」はホームページでご覧いただけます。

<http://www.toyo.ac.jp/libra/>

白山図書館

◎和歌文学関係典籍展観開催

さる10月17・18日の両日(土・日)、本学において和歌文学会第44回大会が開催され、それにあわせて図書館で所蔵する資料の展示を行いました。

図書館の展示コーナーでは重要文化財である『狭衣』をはじめとする稀観書25点、2号館第2会議室では鎌倉末期写、伝二条為世筆『古今和歌集』を含む51点の和歌文学関係資料が展示され、大会出席者のほか多くの人たちが来場し、好評を博しました。

朝霞分館

◎開館時間について (引き続き延長)

10月、11月と開館時間を19時まで延長してきましたが、12月以降も引き続き9時から19時とすることになりました。これから学年末試験に向けて、大いにご利用ください。

◎休日開館について

1月15日(金)、17日(日)、24日(日)は休日開館を行います。

◎開館日・開館時間について

冬季、春季休暇中は、開館日、時間が変更になります。各館で配付しているカレンダーやホームページでの利用案内・カレンダー、館内の掲示をご覧ください。

◎インターネット検索について

- ①CD-ROM端末の内の1台で、インターネットも利用できるようになりました。カウンターで申込みをしてください。
- ②インターネットでDigital News Archives(朝日新聞記事データベース)が使用できます。検索範囲は1985年からその日の朝刊までですので、大変便利です。

◎新聞コーナーについて

- ①新聞が増えました。11月から日経産業新聞を購入しています。これで日経本誌のほか、日経流通新聞、日経金融新聞と合わせて日本経済新聞の4つの新聞が揃いました。また、CD-ROMも利用できます。
- ②展示雑誌コーナーにあった『文摘報』が新聞コーナーに移りました。今後も増える予定なので、新聞コーナーを10月に模様替えしました。

工学部分館

◎学年末試験に伴う開館時間延長と休日開館について

[開館時間延長]

1月11日(月)～2月6日(土) 月～金：9時～19時 土：9時～17時

[休日開館]

1月24日(日)、31日(日) 2月7日(日)

◎センター入試閉館について

1月16日(土)

◎入学試験期間中の閉・開館について

閉館：2月1日(月)・2日(火) 工学部入試

開館：2月8日(月)～16日(火)

◎開館等の変更については、掲示をみることに。

板倉図書館

◎軽読書コーナーの本が増えました。

学生の皆さんには、試験期間が終わると春休みが待っていますね。旅行のガイドブックや、長い休暇期間にこそじっくり読みたい小説など、本の数が増えた軽読書コーナーをぜひ利用し、新学期に備えて充電してください。

※年が明けると入試等で閉館になることが多くなります。各館とも「Library Calendar」等でお知らせしますのでご注意ください。また、ホームページでも掲載しますのでご利用ください。

BOOK TRUCK

身近でありながら意外に知らない和の世界。今回の特集が少しでも日本文化の再発見や興味・関心のきっかけになれば執筆者、編集者一同うれしい限りです。

さて、新しい年が始まり、利用者の皆さんの心の中には「ゲーディングに挑戦してみよう」等といった「今年のテーマ」があることと思います。その情報収集にも、是非身近で有効に利用できる図書館をご活用下さい。本年も「KOΣMOΣ」とども図書館をよろしく願っています。(K)